

# サクソフォンの

# ヴィブラート

ミューールから現代まで……その実践的な使い方の研究

クラシカル・サクソフォンのヴィブラートの  
誕生と発展を跡づけ、イベールを始めとする  
さまざまな曲での演奏例とヴィブラートの  
訓練法を詳しく分析する。

佐々田 剛  
サクソフォン奏者

集中連載  
2

私立洛南高校を経て大阪音楽大学卒。同大卒業演奏会に出演。京都新人演奏会を始め数々の新人演奏会に出演。日本クラシック音楽コンクール入賞、長江杯国際コンクール一般の部最高位入賞。「ミ・ペメルサクソフォンアンサンブル」の一員として2006年スロヴェニアで行われた世界サクソフォン会議に参加。これまでにフランス、ロシア、中国、タイ等での海外公演に参加。また大阪フィルや関西フィル等のオーケストラに客演奏者として参加する。

# Saxophone Vibrato

## 3 ヴィブラートをつくる要素と特性

ヴィブラートは様々な表情、演奏効果を音に与えることが出来る。フルート奏者ゲルトナー

は、ヴィブラートを完成させるには次の4つの要素を完全にコントロールすることの重要性を

説明している。  
・ 振動の周期  
・ ピッチの幅

・ 振動の回数（秒）とピッチの幅の可変性  
・ 規則性

これらの要素はそれぞれが複雑に絡み合うことで一つのヴィブラートを形成するが、ここで

はあえて各要素に注目し、それぞれが音にどのような効果を及ぼすかを考えてみたい。

振動の周期（サイクル）

ヴィブラートにおいて、一定